

廃線跡の観光資源への活用 ～ ニューヨーク「ハイライン」～

ニューヨーク事務所

1 「ハイライン」第2区画オープン



マンハッタンの南端近くのハドソン川沿いに、「ハイライン」という空中公園が2009年6月にオープンし、市民の憩いの場や、新たな観光スポットとして注目を浴びている。ハイラインは、かつて倉庫街であったこの地域に1930年代から1980年まで利用されていた貨物鉄道の高架線路跡を公園に転用したものだ。

その後更なる公園整備が進み、去る6月7日、ブルームバーグ市長、マンハッタン区区長、地元選出の連邦下院議員などが出席するなか開幕式が行われ、現状の開放部分からさらに北部、20丁目から30丁目にかけての約800メートルが第2区画としてオープンした。これにより、高架鉄道跡の3分の2が公園に転用されたことになる。

2 「ハイライン」の特徴・効果

当地の新聞報道を中心にハイラインの特徴・効果についてご紹介したい。

① 人々の集いの場



ハイラインの芝生でヨガをする人（出典：The Epoch Times 6月8日）

ハイライン内は日本の公園などに比べ、芝生やベンチ、植栽が多く設けてあり、実に多種多様な人がくつろぎに訪れる。地元で配布されている無料新聞 The Epoch Times (6月8日付) には「強い日差しを避けて休みに来る人もいれば、日光浴に訪れる人もいる。一人になりたくて訪れる人もあれば、大勢で集うために訪れる人もいる」、「(ハイラインの上を) くつろぎ、ゆったりと歩く人々の表情を見るのはとても素敵なこと」などといった地元住民の声が紹介されている。

② 犯罪防止

ニューヨークタイムズ（6月10日付）には、ハイラインにおける犯罪の報告件数が他の市内の公園に比べて少ないことが紹介されている。記事によると、ニューヨーク市公園局の発表では、暴力行為、窃盗などといった凶悪犯罪の報告件数は2年前のオープン以来、ゼロであるという。

もともと、ハイラインのある地区は、ミュージカルの「ウェストサイド物語」に出てくるような人気の少ない倉庫街で、決して清潔で落ち着いた町並みとはいえない。ところが、ハイラインでは、警察官やガードマンなどによるパトロールをこまめに行い、酔っ払いや自転車の乗り入れなどには容赦なく出頭命令書を発行し、ルール違反や迷惑行為など犯罪の芽を摘み取ってきたそうである。また、市内の多くの公園では形式上深夜は閉鎖されるものの出入りが比較的自由になっているのに対し、ハイラインは午後

11時には完全に閉鎖される。高架橋を転用した構造も侵入者を防いでいるようだ（無理に押し入ろうとすると数メートル下の路上に転落してしまう）。加えて、ハイラインのすぐそばまで迫るアパート（日本で言う高層マンション）やホテルの窓などが「監視の目」のような心理的効果を与え、侵入者を寄せ付けない理由のひとつと考えられている。



ハイラインを視察するブルームバーク市長（出典：The New York Times 6月6日）

③ 街の価値がアップ



ハイラインのすぐそばに迫り来るアパート（出典：The New York Times 6月6日）

かつての倉庫街も、ハイラインや廃工場を転用した商業施設「チェルシー・マーケット」などの登場により、流行りのおしゃれなエリアになりつつある。ハイラインのすぐそばには新しいアパートが建設されている。

同じくニューヨークタイムズ（6月7日付）には、ハイラインの公園化のきっかけを作った地元住民のNPO「フレンド・オブ・ハイライン」の人の話として、「ハイラインによって地元経済に良い影響が出ることを期待していたが、こんなに早く効果が現れるとは誰も思わなかった。この地域に（今のよう）世界的シェフのレストランが立ち並ぶといったら、（夢物語と）馬鹿にされていただろう」といったコメントが紹介されている。

不動産価格も確実に値上がりしており、同記事によると、アパートの価格はハイラインのオープン後2倍に跳ね上がり、現在では1平方フィート（0.09平米）あたり2,000ドル（約16万円）するとのことである。

3 さいごに



都市インフラの整備が街の雰囲気には大きな影響を及ぼす話は日本でも耳にするところであるが、廃線跡を上手く公園に転用し、ここまで劇的に街の雰囲気を変えたハイラインはある意味「奇跡的」と感じた。100年以上昔から人や車、建物が極度に過密したニューヨークならではのものだろう。今後も折を見てハイラインとそれをめぐる街の様子を追ってみたい。

(鈴木所長補佐 東京都派遣)

ハイライン俯瞰 (出典:ハイライン公式ホームページ)

